

弘前第一養護学校 S D G S 通信

SDGs通信 第5号は、「SDGsの学びを通して育ってきたこどもたちー3年間の校内研究を振り返ってー」をお届けします。

本校では、3年間にわたり「SDGsの視点を取り入れた授業づくり」をテーマに、こども主体の学びの実現を目指して取り組んできました。

第1号から第4号では、小学部・中学部・高等部それぞれの実践を通して、こどもたちの学びの広がりをお伝えしてきました。最終号となる第5号では、これまでの実践を振り返り、SDGsの学びを通して育ってきたこどもたちの姿と、その成果についてご紹介します。

1. 実生活・将来につながる「生かす力」の育ち

学習の中で扱った内容が、学校の中だけで完結するのではなく、日常生活や卒業後の生活へとつながる姿が見られました。

資源の分別や再利用、食品ロスへの意識などについて、自分たちにできる行動を考え、実際の生活の中で生かそうとする様子が育ってきています。また、具体的な場面を想定した学習を通して、「自分で調べる」「選択する」といった主体的な行動にもつながっています。

2. 地域とつながることで深まる学び

地域の施設や人と関わる学習を通して、こどもたちは「社会の中で学んでいる」という実感をもつようになりました。作業学習や資源循環の取組では、地域からの依頼や協力を受けながら活動することで、責任感や役割意識が育っています。

また、人との関わりの中で、援助を求める力や協働する力など、生活に必要な力の伸びも見られました。

3. 学びをつなげて深める力の伸長

体験的な学習を積み重ねることで、個々の知識がつながり、意味のある理解へと深まっていきました。「捨てるもの」と思っていたものが資源として生かされることに気付いたり、異なる場面での取組を比較したりする中で、考えを広げる姿が見られています。

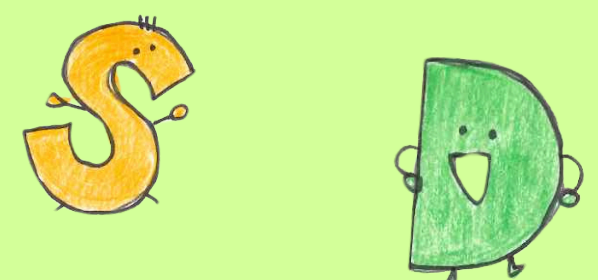
学んだことを実際の行動に移す様子も見られ、知識と生活が結び付いた学びへとつながっています。

学びを通して見られたこどもたちの姿

これらの取組を通して、こどもたちには次のような変化が見られました。

- ・資源や物を大切にしようとする行動
- ・自分の役割を意識し、責任をもって取り組む姿
- ・友達と協力しながら課題を解決しようとする姿

体験を重ねる中で、こどもたちは少しずつ「社会の一員として生きる力」を身に付けてきています。



おわりに

日々の実践を積み重ねることで、こどもたちの生活や将来につながる学びへと広がり、それらを生活や社会へとつなげていこうとするこどもたちの姿が、確かな変化として見られるようになりました。

また、本研究は各学部やグループごとの実践だけでなく、学部を越えて共有し合い、学び合うことで深まりをもったものとなりました。先生方の日々の工夫と挑戦が、本校の授業づくりを支えてきたと感じています。

SDGsの視点を取り入れた学びは、これからの社会を生きるこどもたちにとって欠かすことのできないものです。今回の研究で得られた成果を土台として、今後も「こども主体の学び」を大切にしながら、教育活動のさらなる充実を図っていきたいと考えております。

最後に、弘一養で育ったこどもたちが、卒業後、それぞれの地域で、学校で学んだことを思い出したり、自分から働きかけたりしてくれることを願っています。

3年間の校内研究にご理解とご協力をいただきました保護者の皆様、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

今年度、通信を担当した私の似顔絵を、
中学部2年の佐藤維月さんが、描いてくれました。
ありがとうございました。



Itsuki Sato